

縁起の良い雲!?! ~彩雲~

1 はじめに

青森県の冬は、日本海側を中心に雪雲に覆われ、空を見上げる機会も少ないことかと思えます。ところが、雲をよく観察してみると、美しい雲や珍しい雲、変化の激しい雲など興味深いものが数多くあります。今回は、筆者が外出先で出会い、思わず足を止めてしまった「彩雲(さいうん)」について紹介します。

2 彩雲

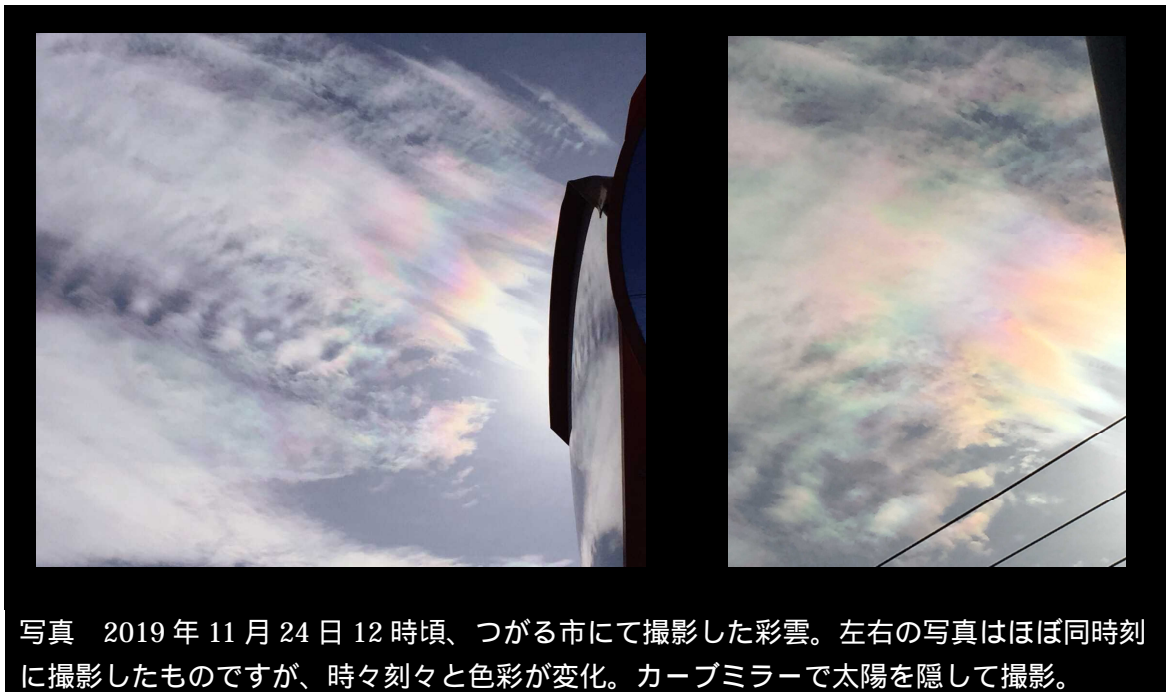


写真 2019年11月24日12時頃、つがる市にて撮影した彩雲。左右の写真はほぼ同時刻に撮影したのですが、時々刻々と色彩が変化。カーブミラーで太陽を隠して撮影。

彩雲は、上空の比較的薄い雲がその縁に沿うように赤、黄、緑などの色に分かれて見える現象です。この現象は、太陽の光が雲の粒を回り込んで進む(これを回折といいます)ことにより発生します。

彩雲は瑞雲(ずいうん)、慶雲(けいうん)、紫雲(しうん)などとも呼ばれ、古くから吉凶の象徴とされてきました。由来は定かではありませんが、気象大学¹の学校祭は「紫雲祭」と呼ばれています。

彩雲は、一見して珍しい現象のようですが、実際は、季節や場所には関係なく、頻繁に見ることができます。太陽の近くに薄い雲がある時が狙い目です。

¹ 気象大学は千葉県柏市にあり、気象庁の中核となる職員を養成するための大学部(修業期間4年)と、気象庁職員の研修を行う研修部がある気象庁の施設機関です。

3 当日の気象状況

関東付近に低気圧、日本海北部と東シナ海には前線を伴った低気圧があり、日本付近は深い気圧の谷となっていました(図1)。低気圧や前線の影響により、東北地方は概ね雲に覆われており(図2)、雨の降っているところもありました。撮影したつがる市付近では、雲の切れ間で晴れていましたが、上空にごく薄い雲がかかっていた。

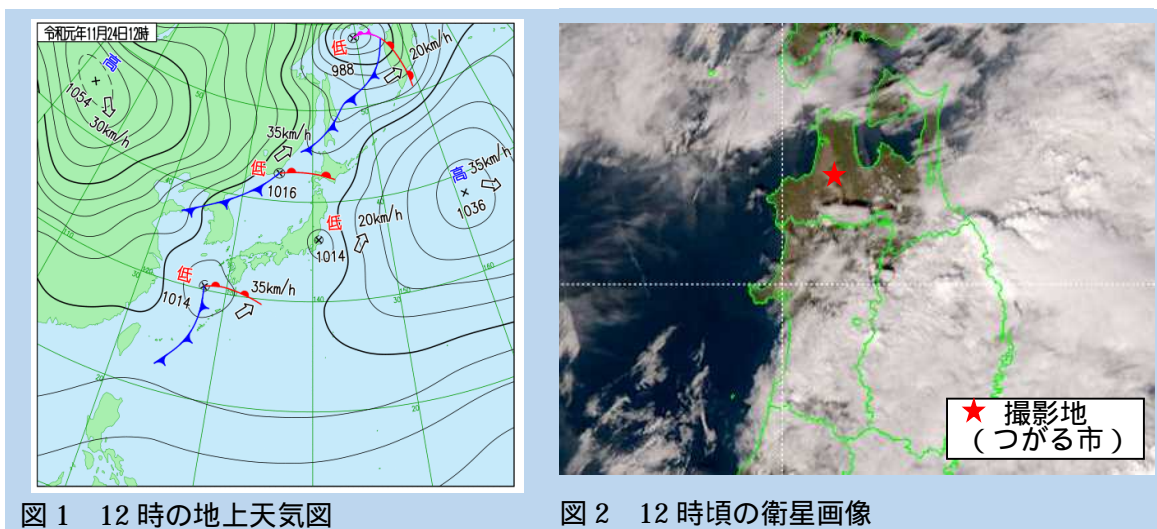


図1 12時の地上天気図

図2 12時頃の衛星画像

4 写真の撮影と注意点

彩雲を撮影する際、太陽の直達光が入ると、虹色が白くぼやけてしまうので、雲の厚い部分に太陽が隠れたタイミングに撮ると良いでしょう。厚い雲が無い場合は、太陽を建物などで隠すことで、直達光が入るのを防ぐことができます。これにより、スマホでも十分綺麗に撮影することができます(掲載の写真はスマホで撮影)。

最後に注意点です。太陽を直視すると目を傷めてしまう危険があります。また、一眼レフの光学ファインダーや双眼鏡で一瞬でも太陽を見ると失明するおそれもありますので、絶対にやめてください。観察・撮影する際には、太陽を建物などで隠すように遮光したり、サングラスを着用するなどして安全に行うようにしましょう。

参考文献：

荒木健太郎「雲を愛する技術」(光文社新書)

(この原稿の作成 木村)



国土交通省 気象庁 青森地方気象台
〒030 0966 青森市花園一丁目17番19号
電話017-741-7411



気象庁ホームページ：<https://www.jma.go.jp>
青森地方気象台ホームページ：<https://www.jma-net.go.jp/aomori/>